

大会名 Competition	第38回 能代カップ 高校選抜バスケットボール大会
NO. M-110	Year Month Day Time 2025 年 5 月 5 日 14 : 30
場 所 Place	能代市ニツ井町総合体育館

発行：能代市バスケットボール協会
http://ncup.snowland.net



チームA 能代科技	22 1st 32 34 2nd 22 14 3rd 29 18 4th 32 0 T	チームB 藤枝明誠
88 ●		115 ○

主審:Crew chief
高橋 和也 宮城
副審:Umpire
大山 忠則 秋田
遠田 亘 秋田
テーブル・オフィシャル:Table officials
能代高校 女子

No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3 P	2 P	FT	F	No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3 P	2 P	FT	F
4	✓	佐藤 悠斗		0	0	0	0	1	7	✓	長谷川 陽大		0	0	0	0	0
5	×	金 隼輝		10	2	0	4	2	12	✓	永田 貴陸		2	0	1	0	0
6	×	信太 虹輝		17	5	1	0	2	13	×	渡邊 聖	cap	11	2	1	3	3
7		高坂 岳		-	-	-	-	0	19	×	野津 洸創		17	0	8	1	1
8	✓	下田 瑛斗		5	1	1	0	0	23	✓	佐々木 煌生		2	0	1	0	0
9	✓	山崎 七星		12	2	3	0	4	24	✓	工藤 蒼空		0	0	0	0	0
10	✓	安藤 璃琥		5	1	1	0	0	31	✓	金子 來樹		2	0	1	0	0
11	×	宮田 蒼羽	cap	21	2	6	3	3	35	×	柴田 陽		13	0	3	7	0
12	×	松田 来翔		0	0	0	0	3	43	✓	ソバイモトウ		2	0	1	0	2
13	✓	近藤 愛翔		2	0	1	0	2	44	×	アマー エマニエル・チネメルン		33	0	16	1	0
14	×	岸部 瑛太		11	1	4	0	2	47	×	高松 悠季		13	1	2	6	1
15	✓	熊澤 隼		2	0	1	0	0	51	✓	福本 彩人		6	0	3	0	2
16		名古屋 蒼良		-	-	-	-	0	55	✓	小森 蒼斗		3	0	1	1	0
17		大嶋 遥佳		-	-	-	-	0	70	✓	濱崎 煌大		7	1	1	2	2
19	✓	黒澤 啓太		3	1	0	0	0	77	✓	徳田 翔太		4	0	2	0	0
コーチ		長谷川 聡						0	コーチ		金本 鷹						0
アシ		遠田 貴大						0									
合計				88	15	18	7	19	合計				115	4	41	21	11

※×:スター /:交代選手 PTS:ポイント 3P:3Pポイントシュート 2P:2Pポイントシュート FT:フリースロー F:ファウル

Score ranking[Team]

1	21	23.86%	宮田 蒼羽
2	17	19.32%	信太 虹輝
3	12	13.64%	山崎 七星

1	33	28.70%	アマー エマニエル・チネメルン
2	17	14.78%	野津 洸創
3	13	11.30%	柴田 陽

Score ranking[Game]

1	33	アマー エマニエル・チネメルン	藤枝明誠	2	21	宮田 蒼羽	能代科技	3	17	信太 虹輝	能代科技
								3	17	野津 洸創	藤枝明誠

3日間にわたり熱戦を繰り上げた能代カップもいよいよ大詰めとなった。ここまで強豪校と互角の勝負を展開し勝てば準優勝の藤枝明誠に対し、地元大観衆の声援を背に能代科技が挑む。

1Q、両チームマンツーマンからのスタート。高さで勝る藤枝明誠は#44チネメルンを中心にゴール下で加点していく。対する能代科技は伝統のフルコートディフェンスからの速攻や#6信太#5金の3Pで食らいついていく。終盤になっても両チームともに持ち味を生かした展開が続くが、シュートが落ち始めた能代科技に対し藤枝明誠は確実に得点し次第に点差が開いていく。22-32で1Q終了。

2Q、序盤から能代科技は#11宮田の連続スティールや3Pなどの活躍で35-34と一気に逆転。ここから両チームともに意地がぶつかる激しい展開となる。積極的にシュートを狙う能代科技と確実にゴール下で加点する藤枝明誠。終盤、能代科技#14岸部、#10安藤の3Pで頭一つ抜け出した能代科技が56-54でリードし前半終了。

3Q、両チームとも激しいディフェンスの前にターンオーバーを重ね得点に繋がられない。そんな中で藤枝明誠#44チネメルンがスティールからのダンクシュートを含む連続得点で一人気を吐き、徐々に点差が開き始める。更に残り3分68-72となったところで藤枝明誠はメンバーを全員入れ替えてフルコートプレスを仕掛けると、足が止まった能代科技はついていくことができず70-83、藤枝明誠が逆転した。

4Q、能代科技は積極的にドライブを仕掛けていくものの、藤枝明誠の高さの前に得点できず、残り時間7分となったところで点差が20点に開いてしまう。その後も安定して加点を重ねた藤枝明誠が88-115で能代カップ準優勝を果たした。

敗れはしたものの能代科技の1年生#14岸部の類まれなバスケットセンスが光った試合であった。今後に期待したい。

文責 【 山本 太志 】